

建築家によるファシリテーション

—カイロ旧市街、住民参加の保存まちづくり—



建築まちづくり委員会
委員長
連 健夫

オンラインで連携、エジプト人建築家のファシリテーション

文化庁からの受託事業でカイロ旧市街の保存まちづくりに関わっている。カイロ旧市街のスーク・シラーハ通りと6つの歴史的建築物の利用保存が目的で、住民の意見・要望を取り入れるべく、今年1月に日本側とオンラインで連携して住民ワークショップを実施した。現地の建築家アラー・ハブシー氏(メヌーフィア大学教授)とサラール・ザキー氏(アズハル大学教授)がファシリテーションを行い、住民から多くの意見や要望が得られ、内容の濃いワークショップとなった。彼らには事前に『建築系のためのまちづくり入門』の一部をアレンジして送付し、住民参加のファシリテーションを理解していただいた上で行った。深見奈緒子氏(日本学術振興会カイロ研究連絡センター長)による歴史的建物についての説明により、住民自身が自らの街や建築の価値を理解する機会となり、住民の発表に対してオンラインで日本側から日本の事例を紹介するなど、キャッチボールもできた。今後、建築家により住民の意見を取り入れた更新案ができる予定である。



『建築系のためのまちづくり入門』(学芸出版社)

建築家の役割の拡がりやファシリテーションの重要性

このワークショップでも観られるように、建築家の役割は多様化している。現地建築家はファシリテーションを行い、住民の意見を取り入れた更新案を設計するという役割、日本側の建築家は情報を提供し、アドバイスをするという役割である。日本においても既存を活かすリノベーションを含めた増築、減築、改築など、多様な手立ての組み合わせという編集設計の時代に入ってきている。技術は専門化、高度化する中、建築家がオールマイティーな役割を担うことは難しくなり、さまざまな専門家とコラボレーションする形が増えている。

この中で、イニシアティブをとる建築家にはファシリテーション能力、すなわち、促進力、調停力が求められる。各専門家の力を引き出し、ある方向に創造的にオーソライズする力である。住民参加のまちづくりは、さま

ざまな立場の人が関わっており、さまざまな意見に方向性を与える合意形成の力が求められる。建築における参加のデザインも同様である。最近の公共建築では、住民参加の機会が求められ、設計者にファシリテーション能力が必要とされるのである。

建築家によるファシリテーション

ファシリテーションは、ワークショップの運営や合意形成のスキルがあれば可能である。しかし、参加者にアイデアを示して議論を深めることは、ファシリテーター自身が専門性を持たないとできない。つまり、建築の専門性を軸として、周りと繋がる両手を持つという、T字型専門家の必要性である。このことにより、複数の専門家をまとめたり、住民や利用者の意見から方向性を見出すこともできるのである。

このファシリテーションの留意点として、①フラットな関係が大切→創造的議論をするためには啓蒙的な上から目線ではうまくいかない。②人の意見を膨らませることが大切→こちらから一方的に、これが良い、では押し付けになる。③開かれた気持ちを持ち誰も取り残さない→ネガティブな意見を言う人も、コミュニケーションを通して推進者になってくれることもある。

これからの建築家にとって、さまざまな状況に応じた複数のカードを持つことは大切なのである。

〈注〉

- 1: JCAABE (一般社団法人 日本建築まちづくり適正支援機構) が受託した「令和3年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)」
 - 2: 布野修司、岡田保良、磯野哲郎、荒牧澄多、宍戸克実、連健夫
- ※オンライン支援: 柏木裕之、楡山元一郎、松村哲志



エジプト人建築家のファシリテーションによる住民ワークショップ